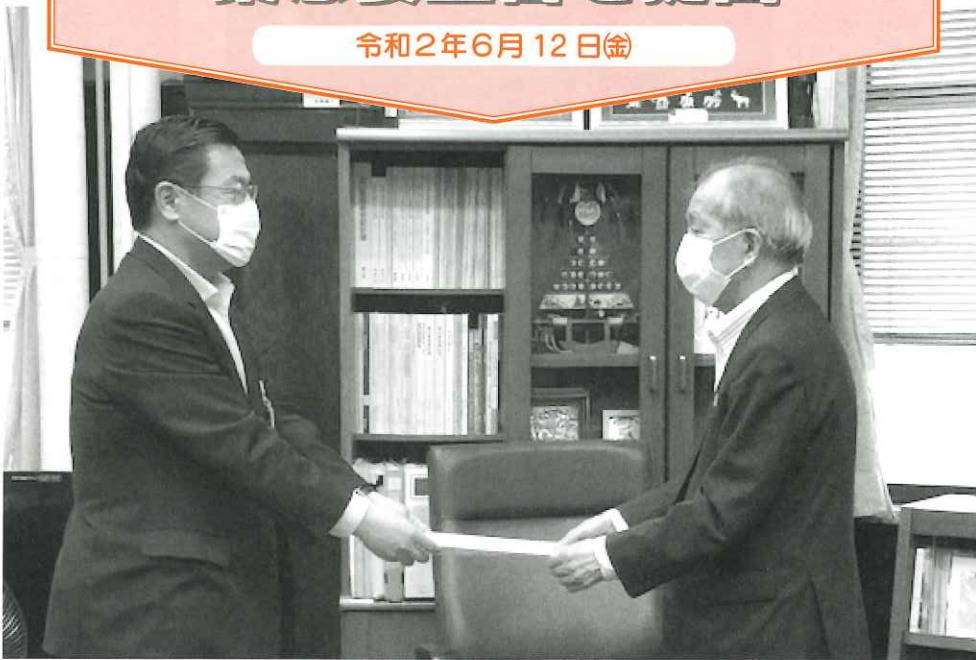


新型コロナウイルス感染拡大に伴う 緊急要望書を提出

令和2年6月12日(金)



石黒厚生部長(左)へ緊急要望書を提出する四方理事長(右)

手をつなぐ
とやま

第174号

富山県手をつなぐ育成会
富山市安住町5-21
富山県総合福祉会館内
TEL 076-441-7161
FAX 076-441-7255
mail toikusei@minos.ocn.ne.jp
HP http://toyamaikusei.jp/
発行責任者
平野 幹 夫

みなさんの会報です
よく読みましょう

無関心
見て見ぬ振りから
差別の芽

7月23日(祝・木)

「総会(理事・監事・
支部代表者会議)」を行いました。



本人部会の参加者から、「あまびえ」や「くたべ」
のイラストが、たくさん届いておりますので、
次号でも紹介したいと思います。

富山市の黒田哲也さんによる
「あまびえ」です



元の日常が
早く戻りますように!!

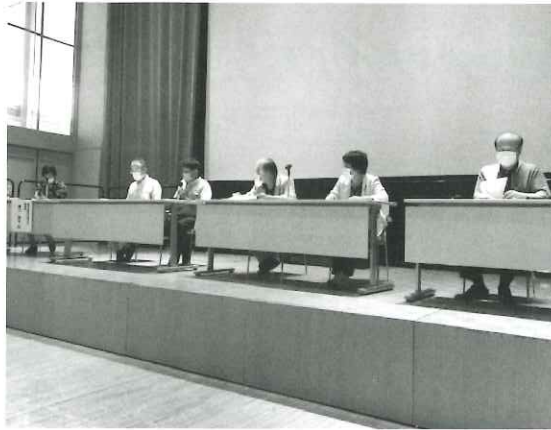
7月26日(日)

ワークショップでのひとこま
「あんしんサポートノート」をPR!



令和2年度「総会」

— 理事・監事・支部代表者会議 —



— やさしさが好きです あなたの その運転 —

ておりますが、コロナ禍により、県大会をはじめ、多くの事業が中止や、規模を縮小するなどの影響を受けています。

本来ならば今年は、「育成会活動の活性化」を軸に、昨年、一昨年に引き続き、各エリアでの「親亡き後勉強会」や、全国手をつなぐ育成会連合会による「地域資源開発協働ハンドブック」を活用したワークショップ等で、皆でアイデアを出し合いながら考え、行動につなげていく予定でした。

現状では未だ、多数が集まっただけの研修会や行事の開催が難しいところですが、今後、どのような形で取り組めるのか、検討していきたいと思えます。

■ 権利擁護推進委員会 報告 — 「親亡き後対策プロジェクト」

総会後には、権利擁護推進委員会の細川瑞子委員長より、「親亡

き後対策プロジェクト」の取り組みについて報告されました。

2年にわたる勉強会によって、親、本人、それぞれの課題が整理されて、キーワードが明確になりました。

「まとめ」となる今年には、「本人の自立支援」をテーマに、本人部の学習会と連携したものにすることを予定したが、残念ながら、この状況では規模を縮小せざるを得ません。そのため、とりあえずは、2年間の取り組みでわかったことを元に、ハンドブックやリーフレット等を作成することとしています。

さて、総会や理事会をはじめ、いろんな会議の際に、「若い人から育成会に入って何のメリットがあるの、と言われる」という話がよく出ます。私たちは、この「親亡き後対策プロジェクト」一つとっても、「育成会が何かをしてくれる会」ではなく、「何ができるか考えて、一緒に行動する会」を目指しています。

また、勉強会では、地域で安心して暮らしていくためには、どんな支援体制や機能が必要なのか、それ

ぞれの地域で何が足りないのかという事がいつも話題にのびります。

このことは、来年3月末までに整備期限が定められている「地域生活支援拠点の構想作り」について、私たち自身が参加して、意見、要望を出していくことにつながっていきます。

となみエリアの西部理事は、「いくら親が勉強を重ねても、子どもたちが安心して暮らしていける制度が構築されていなければ意味がない。親自身が話し合いをくり返し、どのようなものが必要なのかを、行政に訴えていかなければならない」と報告されました。

障害のある人の地域での暮らしを支える「地域生活支援拠点」について、あなた任せではなく、何が必要なのか皆で考えて関わっていくことができる、共によりよい写真を描き合うことができる、そんなところも育成会のいいところ、育成会ができることの『ひとつ』でもあります。

この親亡き後プロジェクトについては、状況を見ながら、各エリアでできることを模索していきます。



新型コロナウイルス 感染拡大に伴う

緊急要望書の提出

6月12日(金)、富山県厚生部・石黒部長に対し、「新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急要望書」を提出しました。

3月の緊急事態宣言後、会員の方々から、「自分がもし感染したら、障害のある子どもの世話はどうなってしまうのか」という不安の声が多く寄せられていました。そこで、障害児者やその家族が

感染した場合の一時的な受け入れ施設の設置や、重度対応の可能なショートステイの確保など、可能な限り安定した日常生活が送れるよう、支援体制の強化を要望しました。

既に、東京都杉並区や、神戸市、神奈川県では、家族が新型コロナウイルスに感染し、在宅で介護する人がいなくなった高齢者や障害者を一時的に受け入れる施設を設置しています。

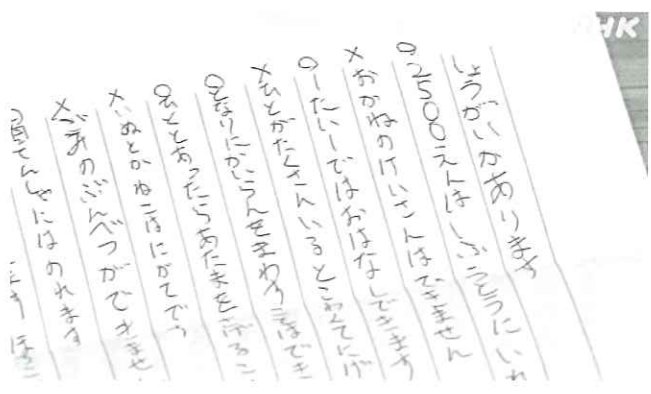
今後、各地域において、適切な支援体制が確保されるよう、市町村や関係機関に対しても、共に手をつないで働きかけをしていきたいと思えます。

富山県議会・上田英俊議長(写真)、自民党富山県支部連合会政務調査会に同要望書を提出しました。

要望書については、会員様にお送りした総会資料に掲載しておりますので、ご一読ください。

全国手をつなぐ育成会連合会

知的障害者の 自死事案についての 声明文



声明文は、全国育成会連合会、または富山県育成会のホームページでご覧いただけます。

全国手をつなぐ育成会連合会

は、令和元年11月に大阪市平野区内で発生した知的障害者の自死事案について、声明を発表しました。

これは、既にご存知の方も多いかと思いますが、新聞報道等によると、知的障害と精神障害のある

36歳の男性が、居住する市営住宅の自治会の次期班長をくじびきで選ぶことを知り、「障害等が理由

で引き受けることはできない」と伝えたところ、「障害の状況や日常生活上の困りごと」を書き出す

よう求められ、「しょうがいがあります」、「おかねのけいさんはできません」などと書かされた上、その紙をほかの住民に見せて紹介すると言われ、翌日、自宅で自死したものです。

全国育成会連合会としては、一方的に当事者を非難する意図はなく、障害者差別解消法や大阪府の障害者差別解消条例による対応、あるいは社会全体に増えつつあるように感じられる「不寛容」などへの課題提起をしています。



障害フォーラム2020 in とやま 「障害者と防災」



— 育もう 傷みをわかる 心の眼 —

8月10日(月・祝)、「障害フォーラム2020 in とやま」がサンシップとやまで開催されました。これは、障害当事者6団体で組織する「富山障害フォーラム」が企画しています。
 今年は「障害者と災害」をテーマとし、ご自身も車いすを利用する講師の東俊裕さん(弁護士、熊本学園大学教授)は、熊本からオンラインでつないでの登壇となりました。

平成28年、熊本県は大きな地震災害に見舞われました。

ご自身も被災者となりながらも、被災した障害者の支援に取り組んだ東さんによると、

「車いすトイレが無いので自宅に戻った」

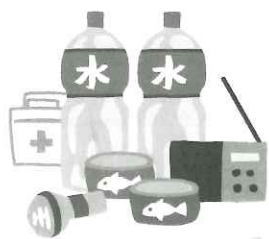
「配給の列に並べず、大きな声を出したりして周りの目が気になるので、障害のある子どもを連れて避難所を出た」

「視覚障害者の誘導係がいないからと言われ、避難所に入れなかった」
 など、様々な事情から避難所にいることができない障害のある人

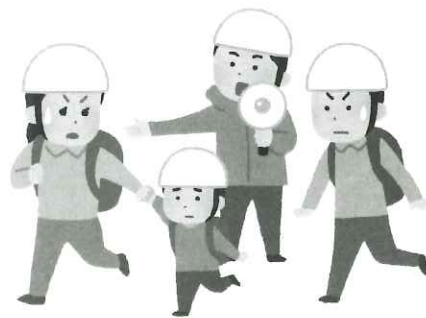
や、その家族が多かったそうです。「災害弱者」となった障害者は、避難所から始まる公的支援の網の目からこぼれ落ちてしまいます。

そこで、災害時の障害者支援の重要課題として、避難誘導体制のこと、避難所や仮設住宅の利用の可能性、在宅避難した障害者への支援体制などをあげられました。

その具体的な方策として、自立支援協議会の中に防災部会を設置している例や、避難行動要支援者名簿に基づいた、避難誘導のための個別計画作成の重要性、また、設計当初から、障害者の存在を想定した福祉避難所や仮設住宅の提供などを示され、障害者団体が行政へ強く働きかけながら、地域ぐるみで取り組む仕組みづくりを訴えられました。



地域の防災訓練に、障害のある人や団体が参加することで、実際に避難する際にどんな手助けが必要



要なのか見えてくるといった積み重ねや、地域とのつながりを深めていくということが、災害時の孤立を防ぐことや、共生社会の礎になつていくのだと感じました。

残念ながら富山県育成会からの参加者は大変少なかったのですが、学齢期のお母さんが、これからの地域づくりにとってもいいヒントになった、他のお母さんたちや、地域の方たちと話し合ってみたく、感想を残していけました。

障害者にとっての災害というテーマでしたが、コロナ対策も含め、防災から始める地域共生社会づくりへの大きなヒントがありました。

日常の困りごとや、悩みごとを “少人数”で一緒にお話しませんか？

テーマ 「自宅待機が長引き、こだわりが強くなってしまった！」

アドバイザー 前田 宣子 先生

(日本自閉症スペクトラム学会理事・自閉症スペクトラム支援士エキスパート)

令和2年7月26日(日) サンシップとやま 701号室

7月26日(日)、日常の困りごとや、悩みごとを話し合うワークショップを、午前・午後と少人数で開催しました。

今年度1回目のテーマは、「自宅待機が長引き、こだわりが強くなってしまった！」。

個々のお話しの内容については記載できませんが、初めての方も、継続して参加されている方も、コロナの影響があっても、無くても、本当に皆さんお困りです。

それぞれ、思う存分にお話しされ、アドバイザーの前田先生から、わかりやすく具体的なアドバイスを受け取られました。

順番にお話しされていく中、「うんうん、そうそう、うちもそうだった」と、他の方々からの共感の声が出ます。

『自分の悩み云々もあるけれど、話を聞いていると、どの方の悩みも本当によくわかる、全部の話に共感するし、先生のアドバイスもやってみようと思います』

『いつも、同じ思いをしている人の話を聞いて、いろいろヒントを得て、よし頑張ろう！といったエ

ネルギーを持ちかえています』
など、ご自身の困りごとの前に、前向きな感想を述べられる方もいらっしゃいました。



愛情と専門的な視点で

前田先生は、ご自身が、こだわりが強い障害のある人たちと上手向き合うことができるのは、専門的な視点はもちろんのこと、それより何より、一番のベースは『その人のことが好きだから』という思いがあり、それに専門的な視点をプラスして寄りそっているからだとお話しされました。

「大好き」という、保護者の皆さんの愛情に勝るものはないので、このようなワークショップで障害特性を理解して、なぜそのような行動をするのか、それに対し

てどのように対処すればいいのか、専門的、理論的な学習を重ねていってほしい。子どもの「ちょっといいじゃん」と思えた行動を切り口に、可能性を認めて、どんどん広げていってほしい、と力強くエールを送られました。

毎回、運営に協力していただいている、富山市の宮田真知子さんからの「お子さんのこだわりも、あんしんサポートノートに書いておきましょう。こうすれば落ち着く、笑顔になるというポイントも加えると、もしもの時、親も子も、支援する人も、安心ですよ」という言葉で、今回のワークショップは終了しました。

先生からの専門的な視点でのアドバイスを得ると共に、「困った、どうしよう、どうしたらいいのかわからない」といった気持ちを吐き出したり、悩んでいるのは自分だけではないと、共感し合えたりする時間はとても大切です。

「次回も楽しみにしています」という参加者の言葉を励みに、今後多少しでも、お悩みの方々の役にたてればと思います。

— 子がまねる 親の正しい 歩き方 —



コロナ禍により、富山県育成会でも研修会等の予定が立てられず、大変心苦しいところです。そんな中、今春、全国手をつなぐ育成会連合会の常務兼事務局長に就任された、又村あおいさんが講師を務める研修会がオンラインで視聴可能となっています。

富山県育成会でも、何度も研修会や県大会の講師としてお世話になり、お馴染みの又村さん。久々に画面を通して、お話しを聞いてみられたいかがでしょうか。

全国手をつなぐ育成会連合会公式YouTube(ユーチューブ)チャンネルからご覧いただけるオンライン研修は次の2本です。

**新型コロナでもつなごう！
オンライン研修会**

令和2年7月12日(日)に開催されたオンライン研修会を、一般社団法人栃木県手をつなぐ育成会様のご厚意により、皆さまにも視聴していただけることとなりました。

【主な内容】

① 「ウィズコロナ」「新しい生活様式」ってどういうこと？何が変わるの？

- ② 新型コロナであれば心配！これもお困った！みんなのお困りを一緒に考えましょう
- ③ 新型コロナでも「手をつなぐ」ために

**ウィズコロナ時代の
知的・発達障害のある人への
支援とは**

令和2年7月23日(祝)に開催されたオンライン研修会を、長野県知的障害者育成会・ドリームワークス様のご厚意により、皆さまにも視聴していただけることとなりました。

【主な内容】

① 「ウィズコロナ」とはどうい

う時代なのか(新しい生活様式を踏まえて)

- ② ウィズコロナ時代の障害者福祉サービスはどうなるのか(新しい生活様式から想定される近未来)
- ③ 情勢から導かれるウィズコロナ時代の知的・発達障害のある人への支援とは

※この動画では、主に①の部分を
お話ししています。

この2本については、当日の資料も希望できますので、詳しくは、全国手をつなぐ育成会連合会のユーチューブ公式チャンネルをご確認ください。

**ドコモプラス・ハートイ障
がい者の情報サイトで、ご
覧いただけるものは、次の2
本です。**

住まい、いろいろ。

「どう住まいよう？どう暮らす？」

暮らすことはイコール住まうことです。今回のテーマは、障がいのある人の住まい方・暮らし方についてです。

ついてです。

障がいのある人の住まい方は自宅、グループホーム、入所型施設、独立生活などがあります。

過去40年の障がいのある人の住まいの変遷をたどり、2020年現在の住まいを支える制度を又村あおい氏が説明します。
(共催：NPO法人しよーとてんぱー)

**知的・発達障がいのある人へ
ひきつけて考える8050
障がい者と家族にとって
8050は5020なのか？**

一般的に「8050」とは、80代の親が、いわゆる引きこもり状態にある50代の子と同居して、主に親が経済を支えている状態をいいます。では、障がいのある方とその家族にとっての「8050」とは？そして、その前に訪れる「5020」とはなにか。

又村あおい氏が
わかりやすく説明
します。

(共催：秦野市自
閉症児・親の会)



障害者アートが郵便局を巡回中!

今年6月から、県内西部地区の郵便局で、障害のある人のアートが巡回展示されています。「PO-OF ART PROJECT (ポフアートプロジェクト) アートがつなぐ遊便プロジェクト」

(主催：富山県呉西地区連絡会内の郵便局)

昨年、一昨年と、伏木古府郵便局で、『郵便局が美術館になった! Kofu-kofu 展』(アートNPOココペリ、富山障害者芸術活動普及支援センター(ばーと)とやま)が開催されました。これが好評だったことから、他の郵便局でも開催してほしいという、日本郵便(株)呉西地区の会所属の局長さんの熱意とご理解によって、今回の巡回展が実現したそうです。

来春まで、県内西部の郵便局を、障害のある人の作品を箱型ギャラリーに詰めて巡回します。一昨年、伏木古府郵便局に伺いましたが、局長さんの熱意は相当なもので、楽しくいろいろ



なお話しをお聞きできました。また、机上のノートには、地元の方の感想が埋め尽くされていました。これまで小矢部郵便局、高岡南星町郵便局と廻り、8月は氷見郵便局へ。氷見郵便局では、アートNPOココペリさんの作品を中心に、氷見市内の福祉事業所の作品も展示されました。郵便局を舞台に、地元の方々とアートをとおしての交流が広がります。お近くの郵便局にギャラリーが伺った際には、ぜひ足をお運びください。

— 子の生命 守る母の手 みんなの目 —

全国手をつなぐ育成会連合会

「手をつなぐ暮らしのおたすけプラン」

国内初、家族に安心を。

全国手をつなぐ育成会連合会は、障害のある方とご家族、ご本人を支える支援者をお守りする、所得補償保険(団体長期障害所得補償保険)の販売を始めました。

「自分たちにもしものことがあつたら、子どもはどうなってしまうのか不安」、「障害のある子が働き始めたが、通常の所得補償保険に加入するのは難しい。病気などで離職、休職するリスクがあるので心配」といった声が、多数寄せられていたことから、損害保険ジャパンと日立キャピタル損害保険と連携し、会員へのヒアリングを重ね、保険の開発につなげました。

共同通信、北日本新聞等でも報道され、全国育成会連合会には、多数のお問合せが寄せられているとのこと。病気やケガによって、長期にわたり働けなくなった場合の収入減

は、生命保険や医療保険だけではカバーできません。長期にわたる収入減から家族の生活を守る、「団体長期障害所得補償保険」に「葬祭費用等補償特約」がセットされた充実の補償、「手をつなぐ暮らしのおたすけプラン」への加入をお勧めいたします。(知的障害のある方ご自身が会員で、働いている場合にも対象となります。)

加入できるのは、全国各地にある育成会会員と、ご家族。また、全育連事業所協議会に所属する事業所をはじめ、障害児者福祉サービス事業所職員の方々です。(※職員を会員とみなす規定が、別にあります。)

お申し込みはWEBからになります。ご質問、ご相談等については、全国手をつなぐ育成会連合会(平日10時~17時、電話03-5358-9274)までお問合せください。

心のともし運動

鉛筆等頒布のご協力ありがとうございました。

合計 **310,196円**

	小学校		中学校		高等学校		個数 合計	校数 合計
	個数	校数	個数	校数	個数	校数		
鉛筆	3,480	47	727	12	87	5	4,294	64
赤鉛筆	237	35	36	11	15	3	288	49
多機能ペン	144	41	91	9	9	3	244	53
シャープペンシル	105	34	145	9	7	4	257	47
替芯	97	35	202	10	23	4	322	49
消しゴム	927	46	592	13	32	5	1,551	64
マーカーペン	147	38	73	10	12	4	232	52
ネームペン	634	45	234	10	77	6	945	61
3色ボールペン	98	34	65	10	10	3	173	47

県内の小・中・高の生徒、先生、保護者の皆様、毎年知的障害のある人達へのご理解・ご支援の一環として、鉛筆等頒布「心のともし運動」にご協力いただき、ありがとうございます。

令和元年度も皆さまの多大なご協力のお陰で、当会では事業を充実させることができました。厚く御礼申し上げます。

なお、収益金のうち70,000円を県特別支援教育研究会に助成させていただきました。

令和2年度につきましても、ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。



全国手をつなぐ育成会 冊子「手をつなぐ」

コロナ禍で、研修会がない！
研修会に行けない！

そんな時にも、知的障害のある人の生活に関する問題や、福祉施策の最新情報、全国各地の先進的な取り組みなど、毎月たくさんのお届けが届けられます。

年間購読料
3,900円

(4月号～翌年3月号のお届けとなります。)



「令和2年7月豪雨災害」義援金活動について

このたび、7月に発生した豪雨災害で、各地に甚大な被害を受けられた皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

当会では、「全国手をつなぐ育成会連合会」と連携し、この災害により甚大な被害を受けられた育成会会員に対する災害見舞金に充てるため、義援金活動の取り組みを行います。

既に、各育成会支部長を通し、この取り組みについて呼びかけていただいておりますが、個人での義援金も受け付けておりますので、ご協力の程よろしくお願ひいたします。(集まった義援金は、全て、全国育成会連合会に送金いたします。)(お振込いただいた方は、事務局までご一報ください。)

①受付期限 令和2年9月28日(月)まで

②お振込み先

〈銀行名〉 北陸銀行 橋北(きょうほく)出張所

〈口座番号〉 普通 6017889

〈名義〉 一社 富山県手をつなぐ育成会

シャ) トヤマケンテヲツナグイクセイカイ

横断は 目で確認 手で合図

育成会の動き

期 日	内 容	期 日	内 容
[報告]		8/10	「障害フォーラム in とやま」 (月・祝) (サンシップ)
6/30(火)	【書面】全国育成会連合会 定時総会 (東京)	8/21(金)	県障害者施策推進協議会 (県民会館)
7/1(水)	富山障害フォーラム 会議 (富山市)	8/22(土)	【中止】地域事業所部会職員研修会 (呉羽ハイツ)
7/3(金)	施設部会 (サンシップ)	8/26(水)	県小学校長会・中学校長会 (教育記念館)
7/5(日)	本人活動部会 (サンシップ)	8/28(金)	サポート協会三者会議 (サンシップ)
7/7(火)	事業所部会 (サンシップ)	[予定]	
7/23	総会【理事・監事・支部代表者会議】 (木・祝) (サンシップ)	9/8(火)	権利擁護推進委員会 (サンシップ)
7/26(日)	困りごと悩みごと相談ワークショップ (サンシップ)	9/15(火)	県議会 自民党政調会 県予算要望 (県議会)
7/28(火)	富山障害フォーラム 会議 (富山市)	9/16(水)	サポート協会理事会・審査会 (サンシップ)
7/28(火)	福祉フォーラム プロポーザル (富山市)		